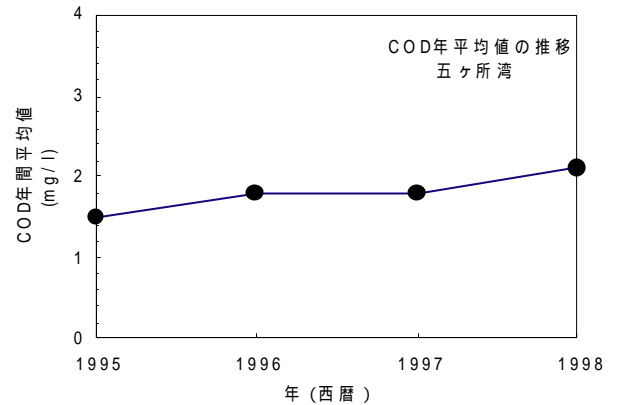


環境

五ヶ所湾は、東方の五ヶ所浦、西方の船越浦・迫間浦の3支湾に分かれ、伊勢寺川・五ヶ所川・神津佐川などが流入しています。

湾内には、定置網や真珠の養殖施設があるほか、五ヶ所港などの小型船の停泊地が多数あり、水質は、全般に良好とはいえ、度々赤潮が発生し、貝類養殖等に被害を与えています。

COD年平均値の推移では、2mg/l前後の値ですが、年々高い値を示す傾向にあります。



自然

五ヶ所湾は、沈水海岸特有の屈曲や小島の群の間に真珠やカキの養殖筏が浮かぶ親しみ深い風景を現しています。伊勢志摩国立公園に指定されており、連続する湾入は変化に富み、波静かな湾内にはマリナー等のリゾート施設が造られています。

湾内の岩礁部にはホンダワラ類やアラメを主体とする藻場があるほか、湾に流入する伊勢路川、五ヶ所川、泉川、神津佐川の河口には干潟があり、アマモ場が分布します。また、伊勢路川河口の中州には、ハマボウの群生地があります。

五ヶ所湾の一番奥、五ヶ所港の目の前にこんもり浮かぶ小島・獅子島は、本州でただ1株と珍重される熱帯植物「ハマジンチョウ」が自生する島として有名で、県の天然記念物に指定されています。この木が花を付ける早春2月には、1cmセンチほどの薄紫の小さな花が咲きます。花卉の先が五枚に分かれ、沈丁花に似ていますが、あの強い臭気はありません。ハマジンチョウは、ハマジンチョウ科の常緑低木で、ジンチョウに似ており、満潮線のやや上位の海岸に生育するのでハマジンチョウという名がつけました。



ハマジンチョウ

文化歴史

五ヶ所は、昔「五ヶ瀬」と呼ばれていました。五ヶ所川の下流一帯が五つの瀬をなしていたところから、この名が付いたと云われています。また、ここは南北朝から戦国時代、愛洲氏の台頭によって栄えることとなった場所です。現在は、町役場・町立病院・学校などの公共施設が集中した南勢町の中心となっています。

7月中旬、五ヶ所浦天王祭と前後して五ヶ所漁協主催の弁天祭が行われます。

産業

五ヶ所湾では、真珠養殖に従事する漁家が最も多く、浜揚げシーズンの11月から2月にかけては、岸辺の作業小屋で貝剥き作業が行われます。

積雪知らずの温暖な五ヶ所湾奥一帯は、名産「五ヶ所みかん」のみならず晩柑類の栽培にも適し、甘夏、八朔をはじめ、ネーブル、イヨカン、ポンカン、レモン、グレープフルーツが実ります。山には昔ながらの酸味の効いた夏みかん、農家の庭先にはキンカンやザボンの木も植えられています。